

神奈川県循環型社会づくり計画の改定素案に対する意見と対応

参考資料 ③

＜令和5年度第1回環境基本計画部会（7月20日開催）＞

番号	部会員名	項目	意見等	対応
1	青柳部会員	I はじめに	P.4のカーボンニュートラルの説明は環境省のHPではなく、経済産業省のHPを引用した方がよい。 https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyoo/carbon_neutral_01.html	ご意見を踏まえ修正しました。（素案P.4）
2	大河内部会員	IV 計画目標	産業廃棄物の排出量に係る目標は「基準年度に対して1%の増加に抑制」という表現の方がよいのではないか。	ご意見を踏まえ、目標2に係る記載を修正しました。（素案P.18-19）
3	鎌形部会員	IV 計画目標	産業廃棄物の排出量に係る目標設定については、説明を丁寧に行う必要があり、なりゆき（将来推計結果）よりも減らすことは明確にした方がよい。また、国の基本方針では排出量は増加だが、再生利用率の向上や最終処分量の減少とセットで一体として説明している。排出量の動きだけではなく、最終処分量は減少を目指すという、全体としては環境負荷を減らしていくんだというような説明とした方がよい。	
4	藤倉部会長	IV 計画目標	将来推計の結果では、建設系の元請完成工事高等の増加により排出量は増加する予測とのことだが、経済活動が伸びていくところは原単位で見ているのもあるのではないかと。	改定計画では、分かりやすい目標を設定するため、産業廃棄物の排出量を用いることとしますが、計画の進行管理において実績を把握する際には、元請完成工事高等の活動指標の動向も踏まえ、分析を行ってまいります。
5	白井部会員	V 施策事業体系 大柱I 資源循環の推進	ライフスタイルの変革は効果を上げるのは簡単ではない。人々が普通に生活をしていてもごみが減るような仕組みを作れないのか。また、取組は具体的な効果を図れるようなものがあるとよい。	施策事業の中では、県民への働きかけだけではなく、事業者の取組の推進として、簡易包装の協力を呼びかけるなどサプライチェーン全体を通じた働きかけを行っています。こうした県民、事業者、市町村といったそれぞれの関係者と連携・協働を図りながら取組を推進してまいります。
6	藤倉部会長	V 施策事業体系 大柱I 資源循環の推進	一般廃棄物については、基本的に市町村の事務であり、県としては市町村が行う市民への働きかけをどう支援していくのかということが重要である。県が県民に直接普及啓発というのは、少し距離が遠い。市町村をどう支援するのかという記載があまりないように感じる。また、指標の中から事業系一廃が除かれたが、食品ロス対策など、広域的に事業者が動かしているものにはもう少し力を入れてもよいのではないかと。	大柱I-1の小柱(3)に位置付けた事業のとおり、引き続き一般廃棄物主管課長会議やその専門部会における情報提供等により、各市町村の取組を支援してまいります。また、事業系食品ロスについては、「神奈川県食品ロス削減推進計画」に基づき、2030年度までに2000年度比で食品ロス量を半減する目標の達成を目指し、取組を推進してまいります。
7	藤倉部会長	V 施策事業体系 大柱I 資源循環の推進	廃棄物を減量化すると県の支援が受けられるなど、経済施策と合わせた施策が必要ではないかと。ESG投資の廃棄物版のような施策をぜひやってほしい。	産業労働部局との連携も含めて今後の課題として検討してまいります。
8	古米部会員	V 施策事業体系 大柱I 資源循環の推進	p.27では質の高いリサイクルの中で、「素材・原料へのリサイクルの推進」として、具体的にはペットボトルの水平リサイクルが挙げられているが、その他にももう少し具体的に書けるとよい。例えば、カーボンリサイクルやリチウムイオン電池、廃プラの固形燃料化など。こういったことが記載されていると事業者としても推進しやすい。	県では、水平リサイクルの推進として、ペットボトルを対象とし、「かながわペットボトルモデル事業推進コンソーシアム」を立ち上げ、業界団体とも連携した取組を推進しているところです。改定計画においても引き続き、ペットボトルの水平リサイクルを推進していくこととし、その他の素材等については、リサイクル技術の進展状況等を注視しながら、より効果的な施策を検討してまいります。
9	大河内部会員	V 施策事業体系 大柱I 資源循環の推進	p.28の上下水道汚泥に関する施策は県が管理している施設のみが対象か、それとも市町村のものも含んでいるか。	上下水道汚泥に関する施策は、県管理施設を対象としたものです。
10	松崎部会員	V 施策事業体系 大柱I 資源循環の推進	県民のライフスタイル変革の促進の中に、「かながわエコ10トライ」があるが、これを実践することにより、どういう変化があるのかが見えにくい。エコ10トライはもっと具体的な「行動宣言」とした方がより普及すると考える。	本計画において、エコ10トライは、県民のライフスタイル変革を促進するツールの一つと位置付けています。「廃棄物ゼロ社会」の実現に向け、県民の行動変容につながるよう、他のツールの活用も含め、より効果的な普及啓発を検討してまいります。
11	青柳部会員	V 施策事業体系 大柱III 災害廃棄物対策	災害廃棄物対策については、洪水など水害も増えており、こういった視点も含めて自治体レベルで対応を検討し、計画に反映してほしい。	「神奈川県災害廃棄物処理計画」の改定において、ご意見も踏まえ対応してまいります。
12	藤倉部会長	その他	リニューアブルは、定着している用語であればよいが、形容詞であり、違和感がある。また、具体的な取組は施策のどこに出ているのか。	リニューアブルは、国のプラスチック資源循環戦略にて用いられたことを契機に広く用いられるようになった用語であり、「神奈川県プラスチック資源循環推進等計画」においても基本理念や推進方策に位置付けています。循環型社会づくり計画においては、施策事業の大柱Iにて推進していくものです。なお、ご意見を踏まえ、素案P.24に例示としてリニューアブルの取組を追加しました。